

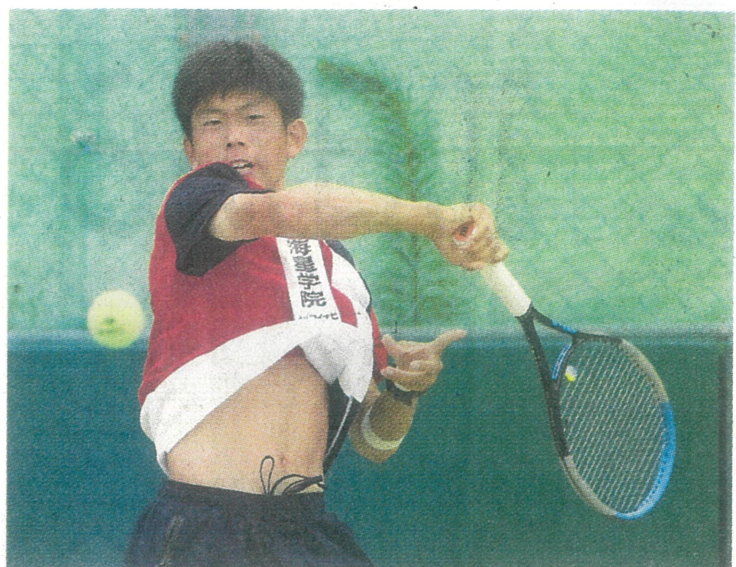
室蘭・海星

小笠原16強ならず

池田は1回戦で敗れる

【長野】全国高校総合体育大会(インターハイ)テニス競技は5日、長野県松本市の浅間温泉庭球公園で個人の部シングルスが始まった。室蘭・海星学院の小笠原陸(3年)は3回戦で敗れ16強入りを目指した。池田蓮(2年)は2回戦に進めなかった。6日からはダブルスがスタートし1回戦に小笠原・松田空(2年)組が出場する。(野田篤志)

全国高校総体 テニス男子



【男子シングルス】16強入りはならなかった海星学院・小笠原—浅間温泉庭球公園



「悔しい…」

北海道王者として臨んだ主将の小笠原。日本一を目指した挑戦は3回戦で途絶えた。試合後は「悔しい…」と肩を落とし、ショックを隠し切れなかった。

硬さが見られた1回戦を快勝すると、2回戦も圧勝。菊地竜平総監督が「ヤマ場」と話していた3回戦に駒を進めた。

「話すことが苦手」な主将。きつい練習もさぼらず、部員17人を背中で引っ張る。有言実行を目指し、「結果にこだわらる」と臨んだ大会だった。同学年で女子シングルス

▽男子シングルス1回戦	藤野恵大(神奈川)	6-4	池田蓮(海星学院)
東海大相模	6-1	藤井勇太(和歌山)	
小笠原陸(海星学院)	6-1	近大和歌山	
▽同2回戦	小笠原陸(海星学院)	6-1	志賀夏緒(福島)
小笠原陸(海星学院)	6-1	志賀夏緒(福島)	
▽同3回戦	小泉照毅(埼玉)	8-2	小笠原陸(海星学院)
和藤明			

に出場するはずだった志賀瑚華は、体調不良で辞退。

「悔しいと思う。そっとしておいた方がいいかなと思つて」何も伝えていない。

アクシデントが重なつた。3回戦開始直前に、落雷のため約1時間中断。さらに試合開始後の猛暑の中、五分の戦いをしていた第6ゲームだった。突然の鼻血の治療で15分間ストップ。ゲーム再開後、「勝てる手応えはあった」が体は思つた通りに動かなかった。

力のある相手にブレイクを許すと、巻き返すことはできなかつた。



【男子シングルス】接戦の末に敗れ、2回戦に進めなかった海星学院・池田—浅間温泉庭球公園

レベルアップ誓つ

○…初めて全国の舞台に立った池田。シングルス初

戦を粘り強く戦つたが勝ち切れず、「決めるべきところまで決められなかった」と悔しがった。

「元々あまり緊張しない」(池田)強心臓。全道大会決勝では、先輩の小笠原と堂々と渡り合った。身長は168センチと小柄だが、菊地総監督に「大きく見えた」と言わしめた成長株だ。

約1時間の熱戦となつた。関東の3年生を相手に、一歩も譲らぬ展開。ともにサーブゲームをキープし、4-4で迎えた第9ゲーム。追い風の好機だったが、レシーブのミスが続きブレイクに失敗。チャンスをものにできず、ゲームカウント4-6で敗れた。

全国のレベルを肌で感じた2年生は「大事なポイントを決められる強さが必要」と振り返り、「技術だけでなく、体も含め全てパワーアップしたい」とさらなるレベルアップを誓つた。(野田篤志)